

日本人作曲家作品の統一タイトル設定についての諸問題

勝山ゆかり（エイコーン）

LS/1 による典拠データベース構築の一環としての、日本人作曲家作品の統一タイトル典拠作成においては、これらの作品に固有の問題が発生するが、これは LS/1 の目録データベースの特徴と密接に関連している。以下に、実務的な立場から、タイトルのパターンごとに事例を引用して、その設定方法を整理してみた。^{注1)}

内容構成

-)LS/1 の目録作業で根拠とする目録規則・準拠する標目・参考ツールなど
 -)日本人作曲家作品のタイトルに固有の問題
 -)パターンの提示とその目録方針・目録事例
 -)まとめ
-

-)LS/1 の目録作業で根拠とする目録規則・準拠する標目・参考ツールなど

目録規則

- ・ AACR2 2nd ed. (Anglo-American cataloguing rules. 2nd ed.) 1998 rev.
英米目録規則 第2版 1998年改訂版
- ・ LCRI (LC Rule Interpretations)
議会図書館適用細則
- ・ MCD (Music Cataloging Decision)
音楽目録決定事項
- ・ NCR '87
日本目録規則 1987年版^{注2)}
(日本語データ作成用に一部採用)

準拠する標目

- ・ LC Name authority, LC Subject authority
- ・ インターネット上の LC データベースの標目

参考ツール

作品に関する調査

- ・ The Japanese National Committee of the International Music Council, comp. *Japanese composers and their works (since 1868)*. Japan UNESCO NGO Council, [1972?]
- ・ The Japan Federation of Composers. *JFC catalogue of publications*
- ・ ニューグローヴ音楽大事典．講談社，1993-1995

- ・榎崎洋子編著 「日本の管弦楽作品表 : 1912-1992」 日本交響楽振興財団, 1994
- ・各作曲家の作品目録 (図書中の作品リストも含む)
- ・JASRAC database, MINC (Music Information Network Consortium) database
(必要に応じて参照)

タイトルの構築

- ・音楽図書館協議会編 「音楽資料目録作成マニュアル. 1997年」 大空社, 1997. 「Part 2. 音楽作品の総称的タイトル一覧」 (原典の最新版 : "Types of compositions for use in music uniform titles : a manual for use with AACR2 Chapter 25 : final report of the Working Group on Types of Compositions. 2nd, updated edition, June 1997, rev. 2002 (Last rev. Feb. 15, 2002)" <http://www.library.yale.edu/cataloging/music/types.htm> (2002 年 2 月確認))
- ・ALA/LC romanization tables. Japanese. *Cataloging Service Bulletin*. No. 20, Spring, 1983, p. 51-65)^{注3)}
米国図書館協会 / 米国議会図書館ローマ字化表 . 日本語
- ・American National Standard System for the romanization of Japanese ANSIZ39.11-1972
日本語のローマ字表記についての米国国家規格方式

) 日本人作曲家作品のタイトルに固有の問題

背景

日本人作曲家作品のタイトル管理の必要性

西洋の古典音楽の分野では特に、同じ作曲家が同じタイトルの作品を複数作曲すること (例えば Symphony, Concerto, Sonata などのように), 同じ作品が様々なタイトルによって繰り返し出版されることが多い。これにより、利用者が特定の作品にたどりつくことが困難な状況が生じる。そこで、作品のタイトルを管理する必要性から「統一タイトル」という手法が用いられるようになった。日本においても、洋楽系の芸術音楽の分野では同様な音楽作品が数多く作られてきており、これを管理していく必要が生じている。

特徴

1) バイリンガル (バイスクリプト) の標目

LS/1 では、目録データベースの構築当初より、標目コントロールの基盤として LC の典拠コントロールの成果を活用するという方針であった。1900年代初め、カッターによって典拠リストの概念が公にされて以来、現在に至るまで、LC では典拠作業に関連する多くの活動を行ってきた。LC の方針、およびその典拠コントロールによる標目は、世界最大の書誌ユーティリティである OCLC の他、多くの国で採用されており、事実上の世界標準であるとも言える。LS/1 では LC の典拠データを利用することにより、即ち、LC の典拠コントロールに

よる標目に日本語情報を追加することにより、標目の統制および目録作業の効率化を図っている。LC の典拠データといえども、場合により一貫性を欠く部分も無きにしもあらずではあるが、そうした点を補って余りある利便性の方を LS/1 では選択したのである。現代では、多言語、多文字環境で情報が扱われるのが通常のことになっている。日本では欧米文化の影響が強く、日本語と欧語（以後、欧文の語に対して「欧語」を用いる）の情報が並列して流通する機会が多い。そうした状況を考慮して、LS/1 データベースの標目は、基本的に、欧語（ラテン文字）と日本語とのバイリンガル（バイスクリプト）で扱われている。洋楽系の芸術音楽における日本人作曲家作品の場合も、日本語と欧語との2つのタイトルが、作曲当初からつけられる傾向にあり、その統一タイトルの典拠もバイリンガル（バイスクリプト）で構築されている。

注：今回とり扱う問題で引用する外国語のタイトルは、欧語に限定する。

2) ラテン文字の標目を確定する場合の問題点

上記 1) の条件を踏まえた LS/1 の典拠データベースはラテン文字の標目を基盤として構築される。統一タイトルのラテン文字の標目は「作曲者がつけた原タイトル (AACR2 25.27A1) ^{注4)}」として何を選択するかにより左右される。これが日本人作曲家作品の統一タイトル作成で最も問題となる点である。

3) 単数形と複数形の概念

日本語は単数形と複数形の概念が曖昧である。例えば、欧語のタイトル "Sonata (s)", "Movement(s)" などに対応する日本語タイトルは、通常、欧語の単数・複数如何に関係なく「ソナタ」、「楽章」などと表記される。

3) パターンの提示とその目録方針・目録事例

主な4種類のパターン（主として楽譜のタイトルページに表示されたタイトル）

	タイトルの状態	備考
	日本語タイトルのみ	作曲者がつけた日本語のタイトルのみが表示されている
	欧語のタイトルのみ	a) 主に国外で活動している作曲者により、国外で出版された楽譜のタイトル
		b) 条件は a) と同様だが、国内向けに作成された出版者のカタログなどに日本語のタイトルが表示されている
	欧語のタイトル + それを日本	欧語のタイトルに対応する意味の日本語タイトルは

語の片かなで表記したタイトル	なく、その片かな表記形が表示されている
欧語のタイトル + 以外の日本語タイトル	欧語のタイトルに対応する意味の日本語タイトルが表示されている

注：パターン ~ で引用する事例は、「個別的タイトル」の例に限定した。

ここで、音楽作品の統一タイトルに関して AACR2 が規定する「総称的タイトル」「個別的タイトル」について若干の説明を記載する。

総称的タイトル：音楽作品のタイプ、すなわち、音楽形式名またはジャンル名 (Sonata, Concerto) , 速度標語 (Adagio, Allegro) および楽器の標準的組合せ (Trio, Quartet) を示す名称。作曲者がそのタイプで複数の曲を書いた場合には複数形で示すこと、演奏手段、番号、調などの要素を付記することが、いくつかの例外を除いて原則である。

個別的タイトル：上記以外の固有のタイトル（例えば "Zauberflöte" など）。作曲者の同一タイトルの別作品と区別する場合を除き、演奏手段、番号、調などの要素は付記しない。

以下に、上記の表の順に従って、パターンごとの目録方針と目録事例を示す。(特記のない限り、情報源は楽譜のタイトルページ)

日本語タイトルのみ

ラテン文字の標目として、日本語タイトルのローマ字表記形を採用する。通常はあまり問題の少ないパターンである。日本語のローマ字表記については、AACR2 25.2D^{注5)} に拠る。

例 1：日本歌曲全集

17

高田 三郎 I

音楽之友社

見出し：立原道造の詩による四つの歌曲 立原道造 作詩
高田三郎 作曲

標目形 (ラテン文字)：Tachihara Michizo no shi ni yoru kakyoku

標目形 (日本語文字)：立原道造の詩による歌曲

参照形 (ラテン文字)：Tachihara Michizo no shi ni yoru yottsuo no kakyoku

参照形 (日本語文字)：立原道造の詩による四つの歌曲

規則 (AACR2 25.28A)^{注6)} により統一タイトル本体から数字が除外され、先に述べたように、

欧語の統一タイトルのように、単数・複数の区別が表現されない。数字を含む表示は参照に記録される。

欧語のタイトルのみ

a) 欧語のタイトルしかないため、これを作曲者がつけた原タイトルであるとみなす。カタローガの片かな表記・翻訳等による日本語標目は無理に記録しない。

例 2: Karen Tanaka

METAL STRINGS
for string quartet

CHESTER MUSIC

標目形 (ラテン文字): Metal strings

b) 作曲者がつけた原タイトルは、欧語のタイトルであるとみなすが、日本語のタイトルが判明すれば、それを追加する。

例 3: MAYAKO KUBO

STUDIE
FÜR FINGERHUT

Ariadne
97026

久保摩耶子作品総目録 . 1997 : p. 13: 指抜きのためのエチュード (1986)

Studie für Fingerhut

ドイツで出版された初版の楽譜にはドイツ語の表示しかない。作曲者のつけた原タイトルはこのドイツ語形であるとみなすのが妥当と思われる。これに対する日本語の情報が別の資料から入手できるため、日本語形を追加する。

標目形 (ラテン文字): Studie für Fingerhut

標目形 (日本語文字): 指抜きのためのエチュード

欧語のタイトル+それを日本語の片かなで表記したタイトル

作曲者がつけた原タイトルは、欧語のタイトルであるとみなし、ラテン文字の標目として、片かなのローマ字表記形ではなく、欧語のタイトルを採用する。日本語標目として、片かな表記を記録する。

例 4： 武満 徹

ヴァイオリンと弦楽オーケストラのための
ノスタルジア
アンドレイ・タルコフスキーの追憶に

TORU TAKEMITSU
NOSTALGHIA
In Memory of Andrei Tarkovskij
For violin and string orchestra

SCHOTT

標目形 (ラテン文字): Nostalgia
標目形 (日本語文字): ノスタルジア
参照形 (ラテン文字): Nosutarujia

対応する LC の典拠データ

(典拠レコード番号, 標目形 (100), 参照形 (400), 情報源の注記 (670) のみ記録し, 最終処理日およびコード情報などは省略してある)

nr 95032739

100 10 Takemitsu, Toru. \$t Nostalgia

400 10 Takemitsu, Toru. \$t Nosutarujia

670 Takemitsu, T. Nostalgia, c1988: \$b t.p. (Nostalgia = Nosutarujia)

このパターンで問題となるのは、欧語のタイトルと、その片かな表記形のどちらを「作曲者がつけた原タイトル」とみなすかである。片かな表記形を原タイトルと考えると、それをローマ字表記した形が統一タイトルとして選択される可能性があり、他方、片かな表記形は単に欧語のタイトルをカナで読んだに過ぎない、と考えれば、欧語が選択されることになる。この場合の方針としては、後者の考え方を採用し、欧語をラテン文字の標目形とし、片かな表記形を日本語の標目形とする。片かなのローマ字表記形 "Nosutarujia" は LS/1 でオリジナルに作成する場合には通常記録しない。LC の典拠では上記のように記録している例が見られる。日本人の立場からすると、欧語の片かな表記形をわざわざローマナイズすることは不自然に感じられるが、LC には、片かなでつけたタイトルも日本語であるから、これをローマナイズするのは当然のことと考えるカタログガーもいるのだろう。

LC の例には、標目形の選択にばらつきが発見される。

・LS/1 の方針と一致した例．日本語タイトルではなく，並列タイトルである欧語のタイトルが選択されている．

no 00077195

100 10 Ikebe, Shin'ichiro. St Bivalence, no. 1

400 10 Ikebe, Shin'ichiro. St Bivalence I

400 10 Ikebe, Shin'ichiro. St Bivalence 1

400 10 Ikebe, Shin'ichiro. St Bivalence one

400 10 Ikebe, Shin'ichiro. St Baibaransu I

400 10 Ikebe, Shin'ichiro. St Baibaransu 1

400 10 Ikebe, Shin'ichiro. St Baibaransu ichi

670 Ikebe, S. Bivalence I, c1998: t.p. (Baibaransu I = Bivalence I)

・情報源の状態は上記と同一であるにも関わらず，タイトルの選択が反対の例．

"Asterion" の表示は楽譜のタイトルページにあることが確認されているが，LC 典拠では注記が不十分で記録されていない．

n 93026454

10010 Kobayashi, Akira, 1960- St Asuterion

40010 Kobayashi, Akira, 1960- St Asterion

670 His Asuterion, c1989

欧語のタイトル+ 以外の日本語タイトル

作曲者がつけた原タイトルに基づいてラテン文字の標目を確定する場合，欧語のタイトルと日本語のタイトルのいずれを選択するかという判断が必要な場合が発生する．そのため，ケースごとに異なる判断が必要とされる．

バイリンガルでつけられたタイトルを前にして AACR2 25.27A1^{注7)}に従ってタイトルを設定する場合に，日本人であるから日本語タイトルが原タイトルであると断定してもよいのか？という問題に遭遇する．例えば，欧語・日本語のタイトルは，楽譜の場合でも，タイトルページ・表紙などにおいてその表示状態はさまざまであるし，また，作曲者の初版楽譜が入手不可能で，録音資料の表示に基づいてタイトルを設定せざるを得ないという，しばしば起こり得る状況においては，目録対象の主情報源にあるタイトルが欧語のみで，日本語は解説にのみ表示されている場合も多い．しかし，どちらのタイトルを選択するかという原則を決めておかなければ，結果的にデータ作成に一貫性を欠くことになる．現行の方針として採用しているのは，記述対象に日本語が表示されている場合には，それを「作曲者がつけた原タイトル」とみなし，ラテン文字による標目形として日本語のローマ字表記形を採用すると共に，対応する欧語のタイトルがある場合には，それを参照として記録する．LS/1 では LC Name authority および LC データベースの標目形に，余程の矛盾が無い限り従う方針であるが，LC の典拠データでは，このように日本語と欧語の両方のタイトルを持つ日本人作曲家作品に対し，統一タイトルの選択にばらつきが多く見られる．

1) 欧語のタイトル+ その片かな表記以外のタイトル(通常は欧語に対応する意味の日本語タイトル)

例 5: 石井真木

十七絃と打楽器のための

漂う島 [作品 3 8]

MAKI ISHII

DRIFTING ISLAND

For Koto (17-chord) and Percussion (opus 38)

ZEN-ON MUSIC

標目形 (ラテン文字): Tadayou shima

標目形 (日本語文字): 漂う島

参照形 (ラテン文字): Drifting island

対応する LC の典拠データ

・ LS/1 の方針と一致した例 . 主情報源にある欧語ではなく , 容器の日本語が選択されている .
(目録対象は恐らく CD)

n 93069462

100 10 Ishii, Maki. St Tadayou shima

400 10 Ishii, Maki. St Drifting island

670 Eclogue, p1989: label (Drifting island) container (Tadayou shima)

・ 情報源の状態は上記と同一であるにも関わらず , タイトルの選択が反対の例

n 96011083

100 10 Miyoshi, Akira, 1933- St Constellation noire

400 10 Miyoshi, Akira, 1933- St Kuro no seiza

670 Miyoshi, A. Mikio Hoshido plays Akira Miyoshi, p1990: \$label (Constellation noire) container (Kuro no seiza)

欧語 , ローマ字表記形のどちらがラテン文字標目に選択されたとしても , 選択されないタイトルは参照に記録されるため , LS/1 での検索上 , 支障を来たすわけではない . ただ LC で何故このようなばらつきがあるのかは不明である .

2) 欧語のタイトルが , 作曲者により別の翻字形でつけられている場合

例 6: MAKI ISHII

<<LA-SEN>>

Musik für sieben Spieler und elektronische Klänge
Music for Seven Players and Electronic Sounds

螺
旋

MOECK VERLAG

「螺旋」を原タイトルとみなすが、本来のローマ字表記形 "Rasen" ではなく、作曲者自身が別の翻字形で付けた欧語 "La-sen" を採用する。"Rasen" は参照として記録する。

標目形 (ラテン文字): La-sen

標目形 (日本語文字): 螺旋

参照形 (ラテン文字): Rasen

・同一作曲者による作品で LC 典拠データの類似例

n 95079110

100 10 Ishii, Maki. St Kyo so [日本語は「響層」]

400 10 Ishii, Maki. St Kyoso

670 Orphika, p1980: Sb label (Kyo so : für Schlagzeuggruppe und Orchester (1968) [in rom.]) container (Dagakkigun to okesutora no tame no "Kyoso")

670 NewGrove Sb (Kyo-so, perc. Orch., 1969)

670 Diz. encic. universale della musica e dei musicisti, c1988 Sb (Kyo-so, per perc. e orch. (1969))

670 Baker's, 7th ed. Sb (Kyo-so, for percussion and orch., Tokyo, Feb.7, 1969)

「響層」をローマ字化すると、通常は "Kyoso" となるが、LC で最初に目録した CD またはレコードのタイトルが "Kyo so" と綴られていたようである。楽譜のタイトルページを確認すると、ハイフンの入ったタイトルがつけられていた。もし LC がこの楽譜により目録したら、ハイフン付きのタイトルが統一タイトルとして選択されたかもしれない。但し、この方法には異論がある可能性もあり、カタログの判断によっては、本来のローマ字表記形を標目形として選択する場合もあるかもしれない。

3) 同一タイトルがつけられたシリーズ

個別的タイトルに逐次番号がつけられたシリーズの場合、規則 (MCD 25.31B1)^{注8)} の適用により、タイトルと逐次番号で構成された形で統一タイトルが構築される。この種のタイトル間では、欧語のタイトルに対応する日本語が、作曲者の都合により欧語のタイトルの片かな表記の場合と、対応する意味の日本語の場合とにばらつくことがある。

次の例 7, 8 は、同一作品が含まれた 2 種類の楽譜である。

例 7: Distraction for clarinet and piano
MASATAKA MATSUO

松尾祐孝
クラリネットとピアノの為の"錯乱"

THE JAPAN FEDERATION OF COMPOSERS INC. (社) 日本作曲家協議会

例 8: MASATAKA MATSUO

TWO PIECES
for clarinet

1. PHONO III, 2. DISTRACTION

松尾祐孝
クラリネットの為の
2つの小品
1. フォノ III, 2. 錯乱

ZEN-ON MUSIC

タイトルページ裏: ディストラクション クラリネットとピアノのために

例 9: 松尾祐孝 / ディストラクションIV トランペットとピアノの為に
Masataka Matsuo / Distraction IV -- for Trumpet and Piano (CD の解説・
容器)

最初の例 7, 8の作品は, Distraction = 錯乱 というタイトルで作曲者が書いた最初の作品である。これを初めとして, さまざまな演奏手段による作品が, 現在第 4 番まで作曲されていると見られる。作曲者は当初, 日本語のタイトルを付与していたが, 第 2 番以降で英語を片かな表記した形に変えている。こうしたケースは日本人の作品に特有である。

最初の作品は手稿譜の複製が初版として出版され, そのタイトルページと見出しには「錯乱」と書かれている。従ってこの場合は「錯乱」を原タイトルとみなす。

標目形 (ラテン文字): Sakuran

標目形 (日本語文字): 錯乱

参照形 (ラテン文字): Distraction, no. 1 (第 2 番からの番号づけを反映した形)

参照形 (日本語文字): ディストラクション, 第 1 番 (同上)

第4番である例9の作品に、日本語形「錯乱」はつけられていないため記録しない。
結果的に のパターン :「欧語のタイトル+それを日本語の片かなで表記したタイトル」に該当する。

標目形 (ラテン文字): Distraction, no. 4

標目形 (日本語文字): ディストラクション, 第4番

参照形 (ラテン文字): Distraction IV (異形)

参照形 (ラテン文字): Distraction 4 (異形)

参照形 (ラテン文字): Distraction four (異形)

参照形 (日本語文字): ディストラクション IV (異形)

参照形 (日本語文字): ディストラクション 4 (異形)

例7, 8, 9のケースでは、タイトルの表示状態を即物的に捉えた判断を行なったが、一連のシリーズとしての一貫性を優先し、標目形を揃えるべきであるという異論もあると思われる。

4) 欧語タイトル・日本語タイトルの両者が総称的タイトル

例10: ヴァイオリンとピアノのための2楽章 (清瀬保二)

2 movements for violin & piano (Yasuji Kiyose) (CDの解説・容器)

「音楽作品の総称的タイトル一覧」およびその原典に "Gakusho" は掲載されていないが、LCの典拠データでは「楽章」が総称的タイトルとして採用されている。英語の "Movement (s)" は、目録規則 (AACR2 25.29A1)^{注9)}で英語形に統一しないで各国語の名称を用いることが規定されているグループに属する楽曲形式 (ジャンル) 名で、大きな作品の個々の楽章には用いないとされている。従って、LS/1 ではこれに倣い、「楽章」も「音楽作品の総称的タイトル一覧」における "Movement (s)" のスコープ・ノートにあるように、「作曲者が原タイトルにこの形をつけた場合に用いる」総称的タイトルに属するものとして扱う。規則により統一タイトル本体から数字が除外され、楽章=Gakusho のみの形となるため、単数・複数の区別は表現されない。従って、参照として記録される英語形のタイトルが、単数・複数のどちらになるか、即ち、作曲者がそのタイトルで2以上の作品を創作しているかどうかの確認が必要となる。

標目形 (ラテン文字): Gakusho, violin, piano

標目形 (日本語文字): 楽章, ヴァイオリン, ピアノ

参照形 (ラテン文字): Movements, violin, piano

対応する LC の典拠データ

n 98015567

100 10 Kiyose, Yasuji. \$t Gakusho, \$m violin, piano

400 10 Kiyose, Yasuji. \$t Movements, \$m violin, piano

670 His Two movements for violin and piano, 196-: Sb container (composed Feb. 1960)
insert (Vaiorin to piano no tame no ni gakusho)

670 Ongaku daijiten, 1981-1983: Sb v. 2, p. 720 (Kiyose Yasuji: Piano to vaiorin no
tame no 2 gakusho,1960)

5) 欧語のタイトル・日本語タイトルの一方が総称的，他方が個別的タイトル（外国人作曲家による作品のタイトルでも，翻訳された日本語タイトルの状態によっては同様の状況が発生する）

例 11： 清水祥平

フルート・ソロの為の習作

（社）日本作曲家協議会

JFC-0017

表紙： SHIMIZU Shōhei

Study for Flute solo

この場合の "Study" はしばしば芸術的練習曲に用いられる "Etude" 「練習曲」ではなく、「習作」の意味で用いられていると思われるが，タイトル自体は「総称的タイトル」に属するものとして扱われる．これに対して日本語タイトルは，作品の性質が「習作」であるという意味であること，「音楽作品の総称的タイトル一覧」に掲載されていないことなどから，個別的タイトルであるという判断が可能である．従ってこれを原タイトルであるとみなす．

標目形（ラテン文字）： Shusaku

標目形（日本語文字）： 習作

参照形（ラテン文字）： Study, flute

まとめ

現状は以上の通りであり，一定の方針に従って目録しているつもりでも，勉強不足も手伝い，場合によっては，判断の曖昧性を排除し切れていない．今回引用した以外にも，極めて例外的な措置により解決しなくてはならないケースもある．目録作業において判断に迷う場合に，現象を見て類推する方法をもって，解決策としていることが多いのが実情である．規則に書かれていない規則以前の米国の音楽カタログ間での了解事項や，規則の背景にある事柄などに関する知識をもっと高めることができれば，より適切な判断が可能になるのではないだろうか，と日頃考えている．最近 LC では，滞貨処理等の目的から OCLC との共同プロジェクトにより作成された典拠レコード "Machine-derived authority records" が多数見られるが，この中には不備な点を指摘せざるを得ないデータも見受けられる．指摘したような LC における標目

形のばらつきについては、作成方針に関して LC に直接質問するという方法もあるだろう。LS/1 のシステムでは、標目として採用されなかった形が典拠データ中の参照として記録されていれば、標目形以外の形で検索しても、その典拠データが電子的にリンクされている全ての書誌データの検索が可能である。LC の標目で不具合な点に関しては、こうした LS/1 のシステム内で補っていかねばならないと思われる。LC の標目との調整をとりながら、標目形以外のタイトルからのアクセスを可能な限り保証することが肝要である。また LC の標目形との異同が発見された典拠データについては、OCLC 等書誌の変換に伴う典拠データの自動リンクが正常に行なわれるようにとの便宜的理由もあり、逐次これを修正していく必要がある。効率の良いデータ作成を行なうことは望ましいが、その裏打ちとなる目録規則等、およびその改訂事項の確認・理解もまた、目録作成現場に身を置く限り不可欠であろう。

力量不足のために多くの点で不十分な内容であったかと思う。良きアドバイスがあれば教えを請いたい。

注1) 本稿は、MLA 研究セミナー 2001 (11月16日 於東京文化会館)での発表に基づく。

注2) 1987年版改訂2版が2001年に刊行されている。

注3) 現在 "ALA-LC Romanization tables : Transliteration schemes for non-Roman scripts, 1997" が公開されている。<http://lcweb.loc.gov/catdir/cpso/roman.html> (2002年2月確認)

注4) AACR2 25.27A1

「音楽作品に対する統一タイトルの根拠として、作曲者がつけた原タイトルの言語を用いる。主要素は 25.28-25.29 の適用によって選定したタイトルから作成する。」

注5) AACR2 25.2D

「統一タイトルとして選んだタイトルが、ローマ字以外の文字で書かれる言語である場合、その目録作成機関が採用する当該言語用の表によってローマ字化する。」

注6) AACR2 25.28A 「タイトル主要素を決定する場合は、25.27 によって選定したタイトルから下記の部分を除く。」

[中間省略]

(4) 数字 (ただしそれがタイトルに不可欠な部分の場合を除く)

注7) 注4) に同じ

注8) MCD 25.31B1. 番号づけのある作品

この規則の第2パラグラフは次のように解釈する。演奏手段または説明語句が、重複するタイトルすべてに共通する場合は付記しない。

[Fantasie-sonate, no. 1]

[Fantasie-sonate, no. 2]

[Fantasie-sonate, no. 3]

[Fantasie-sonate, no. 4]

(すべてオルガン作品)

楽曲形式名以外のタイトルを持つ作品に逐次番号がついている場合は(アラビア数字またはローマ数字、または文字で綴られた数字、および "no." と同等の表示に続く番号の有無にかかわらず)、25.3B1 (d) から 25.31B1 を適用して、そのほうが排列上適切ならば演奏手段を除く。

[Antiphony, no. 2]

Antiphony II : variations on a theme of Cavafy ...

[以下省略]

注9) AACR2 25.29A1. 「25.27 および 25.28 の適用によって、タイトル主要素が1つの楽曲形式のみからなる場合は、英語、フランス語、ドイツ語、およびイタリア語に同語源の形があるか、またはこれらすべての言語で同じ名称が用いられていれば、通用している英語形の名称を用いる。作曲者がその形式で1つの作品しか書いていない場合を除き、名称は複数形で記載する（それは英語以外の複数形であってもよい。例えば *divertimenti*）。

[例示省略]

コンサート演奏用の *étude*, *fantasia* または *sinfonia concertante* あるいは、これらの同語源の語で名づけられた作品に対しては英語形の名称は用いない。

Chopin, Frédéric, 1810-1849.

[Études ...]

Studies